研究紹介

研究・研修

教師同士のつながり力を基に ともに学び合い、ともに育つ研修のあり方

～同僚性・学校の連携を核とした研修の推進～

柳井市立柳井南小学校長
岡瀧道信

一　はじめに

学校では、確かな学力の育成、豊かな心の育成、健やかな体など様々な教育課題への対応が求められている。

これらの教育課題に的確に対応するためには、一人ひとりの教員がそれぞれの資質能力をさらに高めるとともに、これを組織の力につなげていくことができるよう、組織的な学校運営に努めることが必要になる。一方、学校では、教員の大量退職、大量採用の時期を迎え、今後十年間で約半数の教員が入れ替わる状況にある。この喫緊の課題に対応するため、学校間連携を生かした研修を進めると共に、校内の教師同士のつながり力を基にした研修を進め、学校の教育力の向上を図ってきた。

二　研究の視点

（一）学校間連携を生かした資質能力の向上

（二）同僚性を生かした資質能力の向上

三　研究の実際

（一）学校間連携を生かした資質能力の向上

ア　小小連携

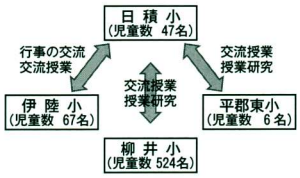
・二校間で交流学習・授業研究

イ　小中連携

・学習と生活面での小中九年間を見通した指導について部会別研修

・授業研究

・合同授業



複数の学校との連携

（二）同僚性を生かした資質能力の向上

ア　1000日プランの活用

・全校で指導にあたる体制づくり

・同学年による指導担当者制

イ　教員の専門性を生かした研修

・教員の得意分野を生かした研修

・ベテラン教員を生かす研修

ウ　学校経営への参画意識を高めるプロジェクト型研修

・学校課題によるチームづくり

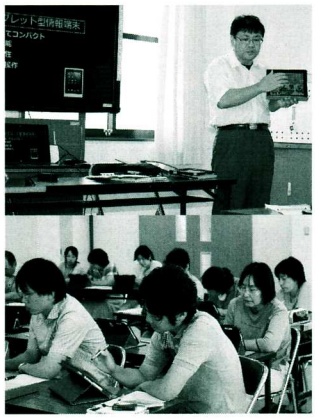
・目標達成のための手立ての検討

・PDCAサイクルによる確認

エ　学力向上推進リーダーを活用した研修

・担任との振り返りを生かした授業改善

・校内研修の支援



専門分野を生かした研修

四　校長の役割

（一）学校間連携の推進

学校間連携は教員にとっては資質・能力の向上に資する取組であり、より一層連携の重要性を校長が認識し、校長のリーダーシップの下、組織としての取組を推進していくことが大切であり、そのための機能的な組織づくりが必要である。

（二）若手教員の意図的な育成

大量退職の時期を迎え、特に、若手育成のための研修を意図的に進めることが必要であり、同僚性を生かしていくことが若手にとっても、中堅ベテランにとっても効果がある。

（三）同僚性を発揮できる職場づくり

同僚性を生かすためには、同僚性が必要であるという意識を教員に持たせる必要がある。校長として「同僚性が発揮できる研修の場づくり」を意図的に仕組んでいくことが効果的である。

（四）教員とのコミュニケーション

教員一人ひとりのよさや課題を把握し、的確な指導・助言ができるよう、日頃から授業参観や教職員とのコミュニケーションを図ることがやはりもっとも重要である。ベテラン教員はストレスを持ちやすい傾向にあり、コミュニケーションの中で中堅やベテラン教員に若手教師に伝えてもらいたいことを期待し、依頼することで、自分の立場を自覚し、モチベーションを高めることができた。

五　おわりに

柳井市では、学校間連携と同僚性を通して、教員の資質・能力の向上を図り専門性を高める研修を推進し相応の成果があがりつつある。今後十年間での大量退職、大量採用を見据え、校長としてさらに組織的に同僚性を生かす体制づくりにリーダーシップを発揮し、改善・充実を図り、人材育成を図っていきたい。